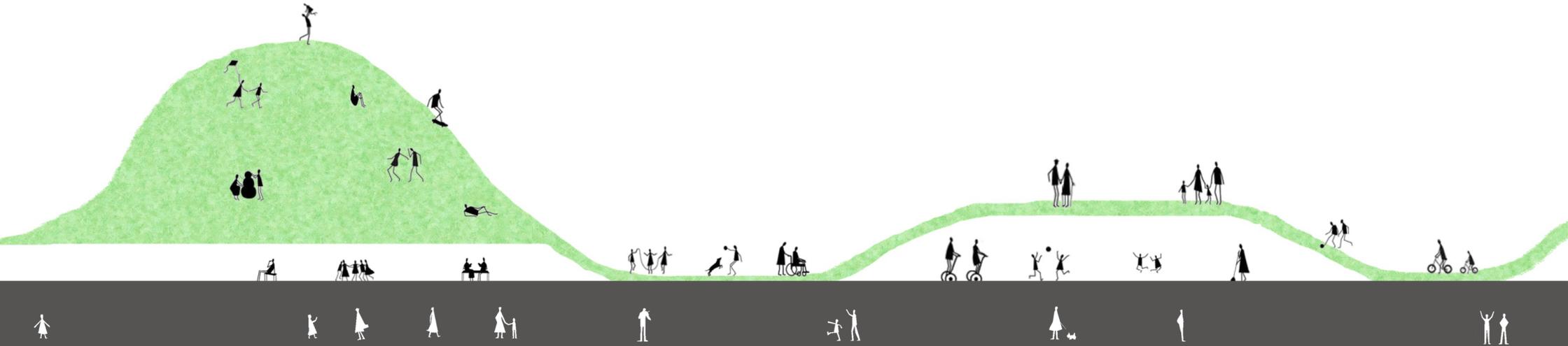


# スキ - 山 / 空中回廊

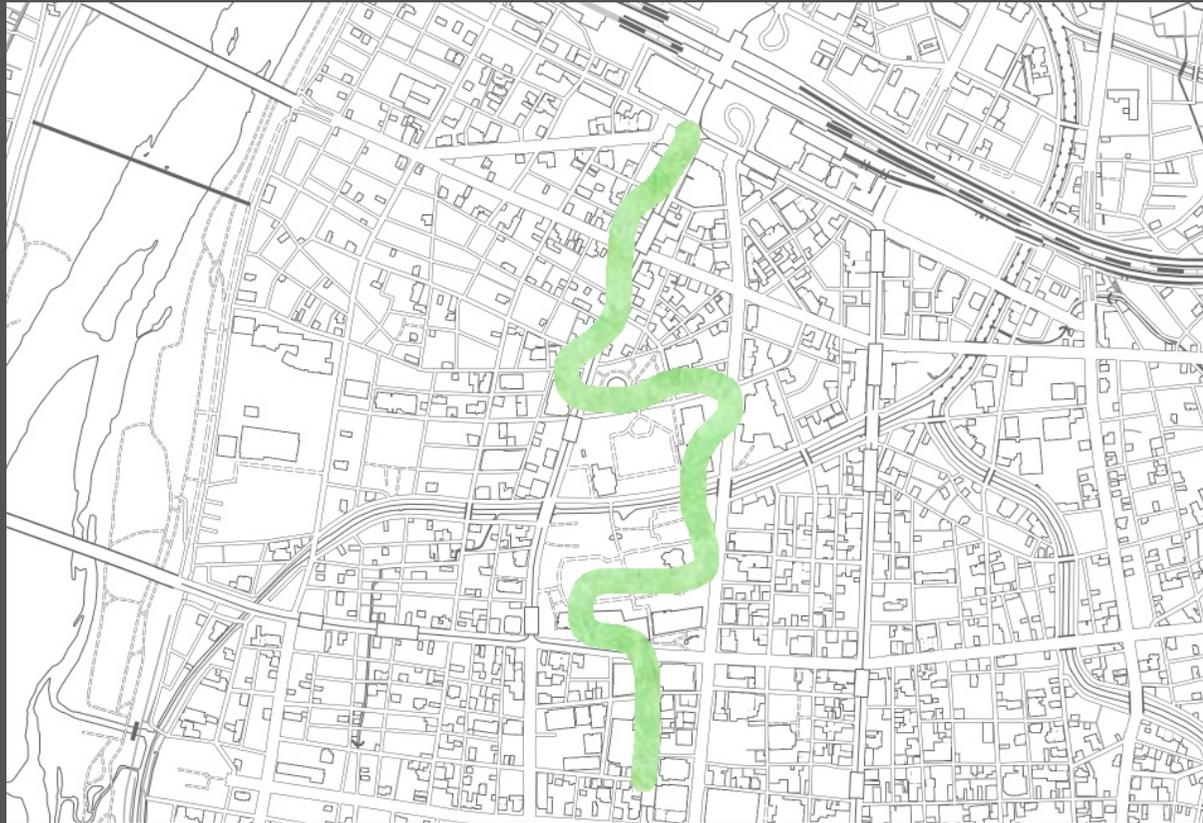


## 遺構と発展

都市計画においては、経済的・物理的・社会的側面だけでなく、歴史的遺構の保存や精神的な文明の価値にも配慮が求められます。富山県の発展の過程で生まれた遺構をどのように残しつつ、未来へつなげていくかが重要です。

例えば、大正13年頃に計画された「大手通りから富山駅までを直線でつなぐ計画」は、富山城や当時の県庁を貫くものでしたが、当時の人々はその案を選択せず、富山城の一部遺構を保存することを決断しました。彼らは、発展と遺構の狭間で葛藤し、史跡の破壊を最小限にすることを選んだのです。この選択は、今日の富山市の都市構造に大きな影響を与えています。

しかし、この結論が果たして最善のものであったかは疑問も残ります。富山駅と中心市街地の分断は、この選択が原因の一つかもしれません。当時、直線で結ぶことが選ばれていれば、今日の大手通りはより発展した商業の中心地となっていたかもしれませんが、歴史的な遺構を保存することも難しくなっただろう。この背景を踏まえ、私たちの提案する計画は、歴史と発展のバランスを取りながら、現代の技術を活用して新たな都市空間を創造するものです。



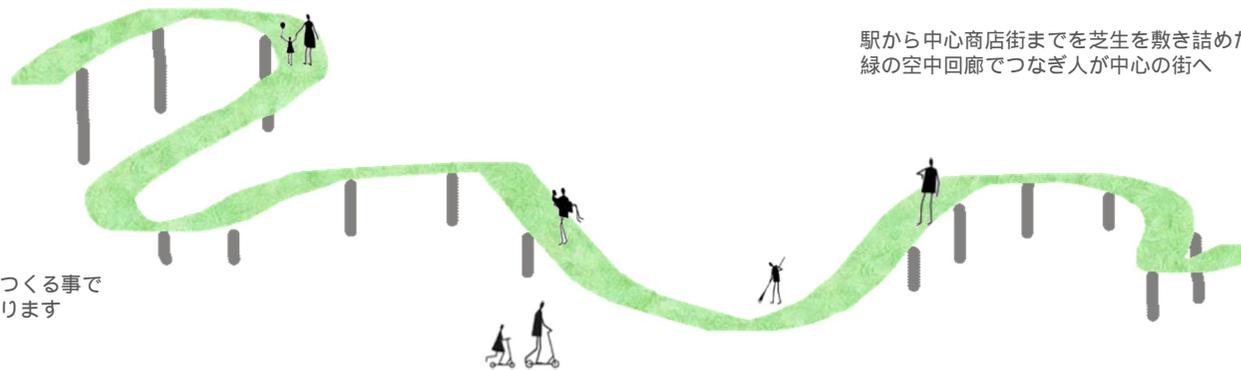
一極集中	曲線
マンション開発	直線
大量消費	史跡
発展	経済性
合理的	技術
人	非合理的
多様性	人工増加
	スクラップアンドビルド
	保存
	遺構
	中心市街地
	歴史



・空中回廊で富山駅と大手モールをつなぐ

私たちの計画では、富山駅と大手モールを空中回廊でつなぎます。大正13年に実現しなかった「駅と商店街を直線で結ぶ」という構想を、現代の技術で再解釈し、曲線を取り入れたデザインで実現します。富山城址を尊重しつつ、回廊を湾曲させることで、遺構を保存しながらも、歩いて楽しい「ウォークブルな街」を目指します。この回廊は、経済性よりも歩行者の快適さや歴史的景観を優先した、持続可能な都市の未来像を提示します。

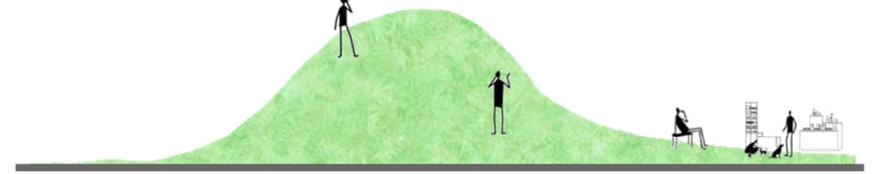
回廊は一部地面と接する面をつくる事で空中回廊と街との接点をつくります



駅から中心商店街までを芝生を敷き詰めた緑の空中回廊でつなぎ人が中心の街へ

空中回廊に合わせてスキー山を持ち上げる事で山の下に空間を設け小さな商業スペースを確保する

山からの景色も楽しめます



山の麓でも小さな店舗が活躍します



小さな店舗がいくつも軒を連ねています。スモールビジネスの象徴的な場所となります



県庁前マルシェの様子



・街中のスキー山

富山県の自然と親しむ象徴として、街中にスキー山を設けます。富山は全国的にも登山客に人気の県であり、この山は、模擬登山を体験できる場所として機能します。また、山は子供たちの遊び場や市民の憩いの場となり、自然の中でのリフレッシュを提供します。山の麓にはイベントスペースや飲食エリアを設置し、日常的な交流やビジネスの機会も創出します。元々は公園であった事を活かして、小さな店舗を主体としたスモールビジネスの支援拠点として、地域経済の多様な成長を促進する場ともなります。

・ウェルビーイングなまちづくり

この計画の中心にあるのは、富山県、富山市全体のウェルビーイングを向上させることです。商業性に特化せず、誰もが利用しやすい空間を提供することで、多様な人々が関わり、共に発展する場を作り上げます。歴史的遺構を尊重しながらも、未来志向の都市開発を実現することで、次世代に誇れる富山県の発展を支えていきます。

